

わたしの作品

【日本画】 鳥取市議会議長賞
孫たち



【岩美町本庄】
やまもと かずこ
山本和子さん

簡単な気持ちで日本画を始めましたが、とても難しく悩み続けて五年間が経ちました。ようやく感じがつかめて何を描こうか考えることが楽しくなってきたところ、今回賞を頂き大変喜んでいますが、「自分の感じたものを表現することが大事」との先生の教えを胸に、もっときめ細かく描くことがこれからの私の課題です。

【写真】 鳥取市文化団体協議会長賞
夕景撮影



【河原町水根】
くらはら みずな
倉持修さん

最初は、興味本位でデジタルカメラを買っただけでしたが、三年前から本格的に始めて、今ではサークルに入り先輩の影響を多に受けています。
この頃は、夕日ばかりを撮影していました。この日、レンズの交換をしようとしたときにレンズ越しに見えた風景にハッとしたり、思わずシャッターを切りました。おもしろいものができたと思います。

市民図書館の
司書が調べます

まちで見つけた「なんでだろ〜?」

鳥取では、お正月に



県外の人たちが鳥取市内で正月を迎えて一様に驚かれるのが、この「小豆雑煮」の習慣です。関東では「シルコ」、関西では「ゼンザイ」というのが、一般的な呼び方でしょう。博物館や民俗資料館などで



鳥取のお正月では一般的な小豆雑煮

組織する「鳥取県歴史民俗資料館等連絡協議会」が、平成四年に県内の雑煮の調査を行っています。会報の第十四号に掲載された中間報告によれば、回答のあった三百九十八

件のうち約50%の人が、正月元日に小豆雑煮を食べると答えています。そのうち、鳥取市周辺の海岸部での割合は77%にのぼります。一方、智頭町や用瀬町、若桜町など、山間部では味噌味や醤油味の比率が高くなっています。『日本民俗地図Ⅱ』（文化庁、昭和四十六年刊）には、新潟県、石川県、京都府、兵庫県、鳥根県など、主に日本海に沿った地域で正月元日に小豆雑煮を食べる地域が分布していることが紹介されています。なぜ、このような食習慣の違いが生まれたのか、はっきりとした理由はわかりません。民俗学者の柳田國男は、小豆は特別な日と普段の日との境を明らかにするための食物だったのではないかと考え、「小豆の赤い」ということが、他の食物には見られぬ特色で

お正月の小豆雑煮が分布する地域



あるが故に、何か特別の効果があるように、感じられたのが始めたつとも言えるだろう（「小豆の話」と推論しています。

雑煮はもともと、神に供えた食物を皆で分かち合う「ナオライ」という儀式に由来しています。新たな年の始まりを雑煮でお祝いしながら、みなさんもどうぞよいお正月をお迎えください。